

2022年

病院看護職の夜勤・交代制勤務等実態調査

調査報告書



公益社団法人岡山県看護協会

社会経済福祉委員会

## 2022年 病院看護職の夜勤・交代制勤務等実態調査の概要

2019年4月働き方改革を推進するための関係法律の整備に関する法律（いわゆる「働き方改革関連法」による）が施行され、働き方改革関連法の趣旨や内容を踏まえて、長時間労働の是正、多様な働き方の選択、雇用形態に関わらない厚生な待遇の確保等の措置が講じられるようになった。

2018年県内の病院に勤務する看護職の夜勤・交代制勤務の実態調査を行った。定点調査として、5年間の推移を把握することを目的に調査実施し、健康に働き続けられる職場環境改善のための資料とする。

### I 調査目的

岡山県内の病院看護師の夜勤・交代制勤務の実態を定点調査として行い、職場環境の現状と課題を明らかにする。

### II 調査方法

1. 調査対象：岡山県内の交代制勤務を実施している163病院に所属し、1看護単位を担当し勤務表を作成している看護師長またはそれに相当する職位の方すべてを対象とする。
2. 調査期間：2022年12月1日～12月31日
3. 調査方法：データ収集方法インターネット（Web）Google フォームを使用し収集する。  
各施設の看護管理者宛にアンケート内容と回答方法について文章で依頼し対象者に伝達してもらう。
4. 調査結果：134人から回答があり、「調査の趣旨を理解し、研究の参加に同意します」と回答した129人を対象に集計を実施した。
5. 調査内容：別紙参照
6. 倫理的配慮：回答は調査に同意した人のみを対象とし、施設名や個人を特定できない。  
web 回答はログイン ID とパスワードで管理した看護協会内の特定のパソコンで管理する。  
結果公表後5年を経過した時点でデータは消去する。また紙媒体は事務局内の鍵のかかる引き出しにて保管し、同様に5年経過後の機密書類処理とする。  
調査結果は各施設に配布し岡山県看護協会ホームページでも公表する。  
なお、本研究は岡山県看護協会研究倫理審査委員会で承認を得て実施した。  
（承認日：2022年11月8日、整理番号：2022-3）

## まとめ

### 1. 回答者の基本属性

WEB 調査から 134 件の回答があり、そのうち同意を得られた 129 件を分析対象とした。

2018 年の調査では 472 件の回答であり、母数差が大きい事を踏まえての比較とする。

回答者の年齢は、「20 代」17 名 13.2%、「30 代」8 名 6.2%、「40 代」43 名 33.3%、「50 代」49 名 38%、「60 代以上」12 名 9.3%であった。

### 2. 勤務している看護単位

看護単位の病床区分は「一般病床」59 人 45.7%、「ICU・CCU 等特殊診療 (NICU 等) 22 人 17.1%、「療養病床」16 人 12.4%、「地域包括病床」12 名 9.3%、「外来・その他診療」「回復期リハビリ病棟」7 名 5.4%であった。前回は「一般病床」232 人 45.8%、「療養病床」88 人 17.4%、「精神病床」59 人 11.6%、「外来・透析室その他」36 人 7.1%、「ICU・CCU 等」30 名 5.9%であった。

### 3. 看護単位の看護職員の状況

看護職の女性人数は、「21～30 人」43.4%、「11～20 人」29.5%、「1～10 人」10.1%、「31～40 人」9.3%、「41 人以上」4.7%であった。

看護職の男性人数は、「0 人」47.3%、「1～5 人」44.2%、「6～10 人」6.2%、「21 人以上」0.8%であった。

平均年齢は、「30 歳代」44.2%、「40 歳代」25.6%、「30 歳未満」19.4%、「50 歳代」5.4%であった。

### 4. 夜勤・交代勤務の状況

- 1) 交代制勤務の形態は、「二交代制 (変則含む)」76 名 58.9%、「三交代制 (変則含む)」35 名 27.1%、「三交代制と二交代制のミックス」17 名 13.2%であった。前回「三交代制」191 名 40.5%、「二交代制」208 名 44.1%、「三交代制と二交代制のミックス」63 名 13%であり、二交代制が増加している。
- 2) 三交代制 (変則含む) の準夜勤・深夜勤の休憩時間の取得状況は、「取れていない」「ほとんど取れていない」を合わせて、深夜勤では 15.4%取れていない。準夜勤では 30.8%が取れていないが、前回は深夜勤 24.0%、準夜勤 35.8%であり、休憩時間の取得の改善がみられる。
- 3) 一か月の平均夜勤回数は三交代制が 8 回 36.5%、9 回 17.3%、10 回 15.4%であった。二交代制は 4 回 31.2%、5 回 37.6%、6 回 14.0%であった。前回と変化はなかった。
- 4) 夜勤専従者の夜勤回数 (二交代制) は「9～10 回」63.6%、前回は 35.3%であり、「11 回以上」27.3%、前回 47.1%であり夜勤回数を減らし負担を減らしているといえる。
- 5) 三交代制 (変則含む) 1 回の夜勤後の休息は、「常に 24 時間以上の休息が確保されている」「おおむね 24 時間以上確保」は三交代制 65.4%、二交代制 93.6%であった。前回調査では三交代制 75.5%、二交代制 94.8%であった。二交代制は 24 時間以上の休息が確保されている現状は変わらない。三交代制は 24 時間以上の休息確保は減少している。
- 6) 勤務と勤務の間隔は三交代制では「常に 11 時間以上空けている」67.3%、「11 時間以下がある」30.8%であった。前回は「11 時間以下がある」51.6%にて 11 時間以上あけるよう改善がみられる。
- 7) 三交代制勤務で、勤務間隔が短い時間勤務 (日勤→深夜等) がある理由は、本人の都

合 47.1%、勤務割の都合が 44.1%、業務上の都合 2.9%であった。

- 8) 三交代制勤務の正循環の交代周期を「取り入れている」のは 48.1%であり「一部している」36.5%であった。前回「取り入れている」37.7%、「一部取り入れている」44.4%であった。身体に負担の少ないとされる正循環の夜勤体制は増えてきている。
- 9) 短時間勤務者の夜勤状況は、「全くしていない」44人 32.6%、「他の人より少ないが夜勤はしている」58人 43.0%、「まれに夜勤をすることがある」12人 8.9%であった。

## 5. 勤務と勤務の間隔

勤務と勤務の間隔について三交代制は「常に 11 時間以上空けている」35人 67.3%、二交代制は「常に 11 時間以上空けている」91人 97.8%であった。前回三交代制は「常に 11 時間以上開けている」48.4%、二交代制は「常に 11 時間以上空けている」94.8%である。三交代制における勤務間インターバルが 11 時間以上確保できているが増えている。

二交代制での仮眠の状況は、「だいたい取れる」が前回 38.6%から 55.9%に増えてきている。

## 6. 勤務編成の基準

勤務編成の基準について、「病院に基準がある」37.8%、「師長裁量で対応」33.0%、「基準がない」9.2%であった。

看護師長が健康に対するリスク説明は「実施していない」61.2%、「実施している」38.8%であった。生活上の留意点の周知は「実施していない」63.6%、「実施している」36.4%であった。看護師長自身が夜勤・交代制勤務のリスクに関する研修受講は「受けたことがある」24.8%、「受けたことがない」75.2%であった。

労働基準法・労働安全衛生法に関する研修受講について「ある」42.6%、「ない」57.4%であった。「ある」と答えた方は「両方受講」41.8%、「労働基準法」43.6%、「労働安全衛生法」14.5%であった。

夜勤・交代制勤務者の安全な帰宅手段の確保は「実施していない」62.8%、「実施している」37.2%であった。

## 7. 夜勤手当について

夜勤手当は、三交代制準夜勤「3,001 円～3,500 円」、深夜勤「7,001 円以上」が最も多い。二交代制は「12,001 円～13,000 円」が最も多く、次いで「15,000 円以上」が多い。

## 8. 夜勤免除・軽減について

夜勤免除・軽減制度について、「ある」73.6%、「ない」26.4%であった。免除・軽減を受けて入る理由として育児が最も多く次いで健康状態、母性保護、能力・経験不足の順であった。

夜勤負担軽減につながる制度や取り組みの具体的な内容は、「夜勤業務の定期的な見直し」「看護師負担軽減等の話し合い」「看護補助者の夜勤導入」「アシスタント等他職種の活用」「12 時間夜勤導入」「スタッフ面談」等が挙げられた。また救急外来の夜勤・準夜帯や遅出に救命士を入れるなどの意見があった。なお、夜勤を一定回数以上した場合の手当・賞与等報酬の有無については「ある」17.1%、「ない」80.6%であった。

夜勤を免除・軽減されている人が、夜勤可能になるために影響が大きいのは、「家族（配偶者）

の理解・協力が得られる」「急な夜勤の休みも対応してくれる」「夜勤回数が少ない」が上位を占めている。

## 9. 新型コロナウイルス感染症の影響による、夜勤・交代制勤務や勤務環境の変化

### <急な交代によるストレス>

新型コロナウイルス感染症に罹患、濃厚接触者になり予定外の休みが入ることで急な勤務交代、夜勤過多となり、日勤、夜勤とも負担が多くなった。また勤務交代が多いことによりストレス度が高くなっているが、疲弊しないように配慮している。

### <チーム編成と勤務形態の変化>

コロナ感染患者を受け入れる病棟の人員確保のため、自部署の人員が減少し、安全を確保するための組み合わせの困難さが増した。

また3交代から2交代に変更したところもあった。

コロナ対応チーム編成により夜勤回数の増加や日勤帯の勤務者数の減がある。

### <具体的な対処方法>

スタッフが感染や濃厚接触者となり、勤務調整をすると連日勤務や休日返上となる期間が長期となり疲弊してるが、励ましの声かけやスタッフの協力により乗り越えている。

コロナ患者を受け入れているので、メンタル面でのフォローを行った。

### <勤務環境>

黙食を心がけ、パーテーションを設置した。

【調査・編集・発行】

公益社団法人 岡山県看護協会

社会経済福祉委員会

2023（令和5）年 6月発行